

デイリーイノベーションで 明日に世界につながる医療へ

偕行会グループ 川原弘久 会長に聞く

世界的にも評価の高い人工透析を中心とする医療事業を展開する医療法人偕行会グループが一九七九年に創業してからちょうど四〇年。その歩みの基本理念は偕行会グループの会長・川原弘久氏（七十七歳）の言う「デイリーイノベーション」（日々変革）だ。

——四〇周年おめでとうござい
ます。これまでの歩みについて振
り返っていただけますか。

川原 偕行会は一〇〇年続くを
目標にしていますので四〇年と
言っても単なる節目、通過点かな
と思います。振り返れば、一〇年
ごとにプランニングし、イノベ
ション、改革をしてきました。立
ち上げ時には透析医療の基礎を確
立。次なる一〇年は内科、外科、
整形外科の三科を中心に合併症対
策、一般医療に展開し、循環器や
消化器センターも設けました。そ

の後の一〇年は医療の専門性を深
め、先端医療を進めてきました。
PETセンターやガンマナイフな
どの施設も立ち上げてきました。
本態性振戦（手や頭がふるえる病
気）に効果のあるFUSという超
音波治療法も採り入れました。最
近の一〇年は海外戦略でインドネ
シアと中国を中心にインバウンド
を対象にした医療の充実です。

——海外戦略ですか？

川原 今年三月にはインドネシ
アのガルーダ航空が週四便、中部
国際空港に増便就航します。イン

ドネシアの私のパートナーがイン
ドネシアパナソニックの前会長
で、一時は商業大臣も務めた有力
者でこの人物がアテンドしてく
れ、大村知事が直接、先方と交渉
してくれました。この努力が実つ
たのです。日本では介護職に就く
人材がなかなか集まらないのでE
PAでの介護福祉士候補者の受け
入れ制度（*注1）が始まってい
ますが、偕行会ではインドネシア
の大学と以前からつながりを深め
ていて、今度のガルーダ航空の増
便でインドネシアからさらに多く
の人材を集められるでしょう。私
は、社会貢献だと思っています。

海外戦略というのは、人口減で日
本の医療マーケットが縮小してい
るといふ背景もあり、海外から患
者さんを迎える態勢を偕行会とし
てもしっかり技術投資などをして
整えていくことが重要なのです。

——総合的な医療をめざす、真
に患者のための医療をめざす、医
療従事者の働きがいのある法人運
営をめざす、という三つの偕行会
のグループ理念に加え八つの医療
方針を掲げておられます。われわ
れ患者側にはとても頼もしいポリ
シーですが、その発想の原点を教
えてください。

川原 これは、日本の医療に対
する批判からきたのです。もとも
と日本の医療は医者をトップにし
た大きなヒエラルキー構造でし
た。しかし医療はフラットでなけ
ればならない。医者も看護師も
技術者もチームで患者さんを診

る。今では当たり前になっている
「チーム医療」という言葉を言い
出したのは僕なのです。これが
原点です。

——その発想の源は何でしょう。

川原 学生時代にさかのぼりま
すが、インターン闘争（*注2）
がありまして、そこで必死に医療
制度について勉強しました。これ
が原点です。日本の医療は薬に
よって支えられてきた。まだ高度
先進医療と言うのはなかった時
代。国民皆保険制度で国民負担の
お金は、医療関係者だけに使われ
るものではなく、製薬メーカー
に還元された部分が大きいので

す。いまではその反省をもとに是
正されましたが。さらに、医療は
一国の経済の上に立つ文化的な事
業ですね。経済がよくなないと医療
はあつてなきが如き、ということ
もわかってきた。一つの病院でも
財政的な基盤を固めないときちん
とした医療サービスを提供できな
い。こうして「医療経済」という
考え方も私が言いましたが、当時
はなかなか分かかってもらえなかつ
たですね。

——これからの医療については。

川原 大きく変えるのはAI
（人工知能）だと思っています。例え
ば画像診断にしても、ビッグデー

タをもとに診断すればかなり正確
に診断できるようになりますよ。
内科医は省力化されたその分、患
者様に向かい合い優しく接するこ
とができるようになる。外科でも
ロボットにAIを組み込めば、手
術も変わる。患者様の負担、侵襲
の少ない手術ができるようにな
る。だから、威張っている医者は
ダメ。ホスピタリティに欠ける医
者は失格になりますよ。問題は行
政です。医療の変革に制度がなか
なか追いつかないという実態があ
ります。例えば遠隔診断はOKと
なったのに薬は病院にとりに行き
なさい、と。こんな矛盾したこと
をやっている。

——最後に五〇年、一〇〇年に
向けての抱負は？

川原 日本の国家財政は破綻に
向かうと私は見据えています。民
間病院はすべからず全滅するとい
う予想も語られています。一医療
法人としてそれを乗り越えるのは
財政基盤の確保であり、海外戦略
のさらなる強化だと思っております。
財政破綻したら、円の価値がなくな
りハイパーインフレになります。

す。日本は食糧輸入国で外国から
食べ物を購入しているのに、円で
食料を買えなくなる。つまり個人
の生活の破壊です。私自身は戦後
のハイパーインフレによって配給
制度となった時代を経験し明瞭に
覚えています。だから、それを乗
り越えるにはさらなる創造的な医
療経営の模索が大事だと思うので
す。常に変化に対応できるように「デ
イリーイノベーション」を目指し
ます。

（聞き手は塚本隆・中部財界フォー
ラム社長）

偕行（かいこう）会グループ 名古屋共
立病院を中心に愛知、岐阜、三重、長野、
東京などに展開、インドネシアにもクリ
ニックを開設。偕行とは、中国周時代に
編まれた、最古の詩集「詩経」からとら
れた言葉。偕は「とも（に）」と読み「皆
ども」に行く、戦う」という意味。

（注1*）EPA介護福祉士候補者 経
済連携協定（EPA）に基づき、日本の
介護施設での就労と研修を通じて介護福
祉士国家資格の取得を目指す外国人のこ
と。インドネシア、フィリピン、ベトナム
の三カ国から受け入れている。

（*注2）インターン 一九四六年から
六八年まで続いた、医学部卒業生に課せ
られた診療実地修練。修了しないと国家
試験を受験できなかった。無資格医療行
為、無給問題で多くの大学で国家試験ボ
イコット闘争が起き、制度が廃止された。



川原 弘久（かわはら ひろひさ）
1941年4月生。医療法人偕行会グループ理事
長兼会長。66年名古屋大学医学部卒。79年名
古屋共立病院を設立。82年に法人化し医療法人
偕行会理事長兼院長。2000年に循環器セン
ターを創設、高度先端医療を導入。現在は4病院、
1820クリニック、1620介護保険施設、介護
福祉施設のほかインドネシアにもクリニックを展
開、巨大医療グループを率いる。